

実施報告書
第 27 回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ
ミキハウスカップ東京 2017

実行委員長 元 憲幸
(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)

はじめに

平成 29 年 9 月 10 日 (日)、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所に於いて第 27 回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ (ミキハウスカップ東京 2017) が開催されました。

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟 (以下 JJYU) と東京都ヨット連盟との共同主催で、外務省、文部科学省、公益財団法人日本セーリング連盟の後援と株式会社ミキハウス様の特別協賛を頂き、大塚製薬株式会社様、スターモア化粧品様の協賛を頂きました。開催地の若洲ヨット訓練所の管理会社 NPO 法人マリンプレイス東京、若洲ヨットハーバーで活動されている夢の島ヨットクラブ、江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ、中央区ヨット連盟ジュニア部、江東区立小中学校セーリング部の指導者・保護者の皆様の協力も頂いて無事に開催出来ましたことを御礼申し上げます。

本年度は 9 クラブ、OP 級初級者 16 艇、OP 級上級者 47 艇、レーザー 4.7 7 艇の合計 70 艇のエントリーがありました。クラブの指導者・保護者 42 名に運営役員その他 65 名とセーリング体験 4 家族 8 名の総勢 185 名と賑やかで国際色のある大会となりました。今年の特徴としては 11 月に若洲ヨットハーバーで行われる「全日本 OP 級選手権大会」の前哨戦として選手権を目指すジュニアセーラーが多く参加したことです。

午前 7 時にはヨットハーバーの門が開かれました。運営役員、スタッフ、選手が続々と集まり、7 時 30 分からの受付では参加資格の確認、帆走指示書が配られ、ミキハウス様提供の参加賞に併せて JJYU の広報誌「ユースセーリング」が配布されました。



東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所



開会式前のチームミーティング



艀装風景

開会式

8時30分から開会式が行われ、冒頭に JJYU 佐藤副会長の開会宣言、ご挨拶、株式会社ミキハウス執行役員社長室長光川 彰夫様のご挨拶とミキハウス様の支援でオリンピックを目指している川田貴章選手（ナクラ17クラス）からの激励の言葉を頂きました。開会式後はそれぞれのレース海面ごとのスキッパーズミーティングが行われました。若洲沖 A 海面は菅野輝郎レース副委員長が、若洲ハーバーポンド内の B 海面は筒井洋二レース副委員長から説明を行いました。

各クラスごとに艇許可が出され、スムーズに整然と選手が艇に出て行きます。



JJYU 佐藤会長代行のご挨拶



優勝ブレザーは誰の手に？



ミキハウス所属の川田選手挨拶（前列右から、須長選手、光川執行役員、佐藤会長代行）



スキッパーズミーティング A海面



B海面

レース

【A海面：若洲沖三枚洲付近】

11月のOP級全日本選手権を目指す選手の参加で、白熱したレースが繰り広げられました。朝から南東の風が入り始めたため、南の風に落ち着くタイミングを見計らい予定よりも少し遅らせてレースを開始しました。

第1レースのOP級上級者クラスのスタートは準備信号U旗にも拘わらず、積極的に狙う選手が多く2度のゼネラルリコールとなりました。3度目は黒色旗にしたにも拘わらず、

積極性は変わらず6艇が失格となる厳しいスタートとなりました。

レーザー4.7は7艇では有り余る十分な長さのスタートラインになりましたが、全艇が本部船の右側で待機していたため、全艇がかなり出遅れるというOP級とは正反対のスタートとなりました。

第2レースもOP級のスタート時の積極性は変わらず、UFD失格が4艇となりました。レーザー4.7は第1レース同様の全艇が本部船の右側で待機して全艇がかなり出遅れるというスタートでした。

第3レースは風が平均で10ノットを超えてきたため距離を伸ばして開始しました。

OP級、レーザー4.7ともに3レース目にして初めてオールフェアのスタートがきれえました。7月にタイで行われた世界選手権大会に出場したメンバーのうち3名が本大会に出場するというハイレベルな本大会を制したのは、1-1-2と圧倒的な成績を収めた池田海人選手（江の島ヨットクラブジュニア・世界選手権出場選手）です。

池田選手の全レーストップフィニッシュを阻止したのは、出口愛美（静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニア・アジア選手権大会出場予定）でしたが、2レース目のUFD失格が響いて14位となってしまいました。

優勝・池田海人、3位・重松駿（夢の島ヨットクラブ）、4位・北原頌子（江の島ヨットクラブジュニア）と世界選手権出場メンバーが上位を占める中、準優勝に入ったのは藤森佑太郎選手（千葉ヨットビルダーズクラブジュニア）で、今年は日本代表入り出来なかったものの、急成長している注目選手です。

レーザー4.7は3レースともトップフィニッシュを収めた荒木智也（江東区立小中学校セーリング部）が圧巻の優勝でした。OP級からレーザー4.7に乗り換えてから頭角を現してきた選手で、身体的にも恵まれているので今後の活躍が楽しみである。

レース後、ハーバーバックをする予定が、B海面のレースが終わっていなかったため急遽ハーバー入港を待つことになったが、待っている間にも走り比べをする選手が多くおり、選手の意識の高さが非常に印象が残った大会であった。



OP級上級者スタート前の攻防



トップ回航する池田海人くん



上サイドの攻防



4位に入賞した北原頌子さん



最終レースストップの出口愛美さん



3位重松くん (3176)、2位藤森くん(3130)



レーザー4.7の上マーク



優勝した荒木智也くん

【B海面：訓練所前ポンド内】

好天に恵まれて風力も3～4mの軽風、ポンド内のレースとしては安定した条件で全レースを終了することが出来ました。

16名の参加選手を3ディビジョンに分けて、午前を予選、午後を決勝としました。

ディビジョンは赤色・黄色・青色の3色のリボンの色分けで行いました。

午前のレースは2つのディビジョンを組み合わせた11艇または10艇のフリートレースを3レース行いました。

選手はディビジョンの組み合わせを変えて2レースずつ参加したことになります。

コンディション：天候・晴れ、風向 160° 南南東、風速 3 m

コースは スタート→①→③→①→フィニッシュ（流し込み）

真ん中スタート／真ん中フィニッシュの上・下ソーセージコース

10:15 予選第1レース 赤 & 黄 ディビジョン

10:38 予選第2レース 黄 & 青 ディビジョン

11:01 予選第3レース 青 & 赤 ディビジョン

OP級初級者クラスに絶好のコンディションでした。上位の選手は安定しており上級者クラスで通用する走りを見せてくれました。基本的な走りが上手く出来ない初心者の選手にはコミッティボートが指導にあたりました。若洲ヨット訓練所湾内（ポンド内）の短いコースのため、建物や本部船のブランケットや建物・林の切れ目からの吹き出してくるブローなどのコンディションを上手くつかんだ選手が上位となりました。

1レースの時間は予定通り10分間で行われました。

昼食後に決勝戦のグループ分けを発表しました。

【午後／決勝レース】予選レースの上位8名をゴールドフリート（黄色リボン）、下位8名をシルバーフリート（青色リボン）として、予選9-16位で2レースを実施しこの段階で12-16位が決まりました。

シルバーフリートの上位3艇の3選手が引き続き予選成績1-8位のゴールドフリートレースに参加して計11艇にて2レースを実施しました。

13:00 決勝第1レース シルバーフリート 8艇

13:20 決勝第2レース シルバーフリート 8艇

13:40 決勝第3レース ゴールドフリート 11艇（シルバー上位3艇参加）

14:00 決勝第4レース ゴールドフリート 11艇

コンディション：天候・晴れ、風向 160° 南南東、風速 2~4 m

コース：スタート→①→②→③→①→フィニッシュ（流し込み）

午前中に引き続き、初級者にも乗りやすい良いコンディションなので、②マーク（サイド）を打ちトライアングルコースにしました。シルバーフリートからでも上位3艇がゴールドフリートに進めるため、シビアなレースとなりました。第1レースで3着の選手が第2レースでOCSとなったためゴールドフリートレースに進めなかったのは残念でした。初心者の選手には午前中に引き続きコミッティボートから指導を行いました。午前中の指導が功を奏し、DNFはありませんでした。

ゴールドフリートレース（第3/4レース）では、スタート前のシーケンスから位置取りの競合いが展開されました。上位の選手は拮抗しており、夢の島ヨットクラブ・山口悠吏選手とYMFSジュニアヨットスクール葉山・鳥羽信輝選手の二人が1着2着を交互に取り合計得点3点の同点となりました。山口悠吏選手が前年度初級者クラスで6位入賞していたため、入賞と表彰を辞退しました。

優勝は鳥羽信輝選手、2位森居昂太郎選手（YMF ジュニアヨットスクール葉山）、3位山口瑛哲選手（葉山町セーリング協会）と葉山勢が活躍しました。

ミキハウスカップ東京のOP初級者クラスに参加した選手は4レース～6レースを経験することが出来ました。今年4月にヨットを始めて今回が初めてのレースという子供たちも複数名参加してくれました。夏休みに練習に励んだ子供たちがそれぞれの成果を発揮出来る大会でした。ミキハウスカップ東京の初級者クラスはレース経験の少ない、或いは初めて大会に出る選手でも、楽しく安全にヨットレースを楽しめることに重点を置いています。

特に若洲ヨット訓練所内（ポンド内）のコースは、陸上の保護者家族・サポーターの皆さんの目の前でレースが展開され、声援が飛び交う運動会のような楽しい雰囲気で行われます。

コミッテイボートからの指導で初めてのレースを楽しく経験することが出来れば、その選手にとって「ヨットは楽しい」生涯スポーツとなります。

日本のセーリング界のすそ野を広げるためのミキハウスカップOP級初級者クラスの参加者が増えることを期待します。



B海面（OP級初級者）の本部艇



予選のレース風景



予選のレース風景





予選のレース風景



決勝レースのスタート



優勝した鳥羽信輝くん（2905）のトップ回航



ヨット体験試乗会と国際親善

日本在住の外国の子供たちにもミキハウスカップのヨットレースに参加して欲しいと在日外国大使館、領事館、在京外国人学校、インタナショナルスクールに呼びかけていますがなかなかヨットレースに参加出来る子供たちが集まらない状況です。

そこで、日本在住の外国の子供と家族に集まって頂いて、ヨットのセーリング体験をしてみらおうと体験試乗会を毎年企画し実施して来ました。参加した子供・家族がセーリングの体験をして、エキサイティングなレガッタの観戦をして「ヨットを続けてみたい」という気持ちになって欲しいと思います。

希望される方には若洲ヨット訓練所で活動している夢の島ヨットクラブ、江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ、中央区ヨット連盟ジュニア部をご紹介します。

今年は4家族8名の方々が参加され、ピクニックキャットという船に乗り、その後で観覧艇に乗り若洲ヨット訓練所沖の海面のOP級上級者クラスのレース観戦をしました。



体験試乗会

成績

OP級初級者クラス

- | | | |
|-----|--------------------|-------|
| 第1位 | YMF Sジュニアヨットスクール葉山 | 鳥羽信輝 |
| 第2位 | YMF Sジュニアヨットスクール葉山 | 森居昂太郎 |
| 第3位 | 葉山町セーリング協会 | 山口瑛哲 |
| 第4位 | YMF Sジュニアヨットスクール葉山 | 結解太郎 |
| 第5位 | 夢の島ヨットクラブ | 早川悠湊子 |
| 第6位 | 江東区立小中学校セーリング部 | 北浦州陽 |



OP級上級者クラス

第1位	江の島ヨットクラブジュニア	池田海人
第2位	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	藤森佑太郎
第3位	夢の島ヨットクラブ	重松 駿
第4位	江の島ヨットクラブジュニア	北原頌子
第5位	夢の島ヨットクラブ	重松 陽
第6位	江の島ヨットクラブジュニア	鷺尾 青



レーザー4.7

第1位	江東区立小中学校セーリング部	荒木智也
第2位	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	三浦帆香
第3位	江東区立小中学校セーリング部	小山すみれ
第4位	YMF Sジュニアヨットスクール葉山	加藤 芯
第5位	YMF Sジュニアヨットスクール葉山	島田十楽成
第6位	江東区立小中学校セーリング部	蝶野宇傑



クラブ対抗レース

- 第1位 江東区立小中学校セーリング部
- 第2位 江の島ヨットクラブジュニア
- 第3位 YMF Sジュニアヨットスクール葉山



閉会式・親善交流パーティー

地元若洲ヨット訓練所で活動しているクラブの保護者の皆様方が準備して下さった心のこもった料理がレースに参加した選手・保護者家族全員に供されるとともに、皆様の親善交流パーティーが楽しく行われました。

食事が進み一息ついたところで、高橋祐司レース委員長が成績を発表し、クラスごとに賞状、メダル、ミキハウスの副賞が、ミキハウスの光川社長室長と須長由紀選手（ウィンドサーフィンでオリンピックを目指しているミキハウス所属選手）にもお手伝い頂き授与されました。須長選手からは子供たちに激励の言葉を頂きました。

OP級上級者優勝者江の島ヨットクラブジュニア池田海人選手にクリスタルガラスのミキハスカップとブレザー、OP級初級者クラス優勝者YMFSジュニアヨットスクール葉山・鳥羽信輝選手にもクリスタルガラスのミキハスカップが授与されました。

団体表彰としてのクラブ対抗レースは、昨年が続いて江東区立小中学校セーリング部が優勝の栄誉に輝き、JJYU会長の特別賞、海外セーリング研修参加資格が代表者の浜崎濠次郎氏に授与されました。

川北達也プロテスト委員長から大変フェアなレースが行われたとの講評を頂きました。

その後は、恒例の入賞出来なかった選手達だけによる「じゃんけん大会」によって、沢山のミキハスカップが順番に贈られて、にぎやかなパーティーとなりました。

最後にレースに参加した選手・保護者・役員スタッフ全員でハーバーの清掃ゴミ拾いをして無事に大会を終えることが出来ました。

最後に

毎年特別協賛頂いている三起商行株式会社（ミキハウス）様をはじめ、大塚製薬株式会社様、スターモア化粧品株式会社様等の協賛、後援、協力を頂いた各団体、企業の皆様とNPO法人マリンプレイス東京、夢の島ヨットクラブ、江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ、江東区立小町学校セーリング部、中央区ヨット連盟ジュニア部の指導者、保護者の皆様のご協力に改めてお礼を申し上げます。

以上



心のこもった手づくりの親善交流パーティー



高橋祐司レース委員長が成績を発表



ミキハウス須長選手の激励の言葉



川北達也プロテスト委員長講評



恒例のジャンケン大会



全員で記念撮影